

IPPS

Sharing Plants Production Knowledge Globally
Japan Region Since 1995

IPPS-J ニュースレター

国際植物増殖者会議日本支部

<http://www.ippsjapan.org>

お問合せ・事務局

〒 441-8123

IPPS日本支部事務局・会計理事 水谷朱美

愛知県豊橋市若松町平土 244

E-mail a.saitani@ippsjapan.org

TEL 0532-25-8712 FAX 0532-25-8406

2025. 1

No. 74

最終号

新年のごあいさつ

IPPS-J 会長 速水正弘



あけまして
おめでとうございます。

速水の最後の研究発表の様子です。

さて、私がニュースレターの担当になったのは、2018年1月のNo. 61からですので、本号が7年目14号目となります。

藤森さんより引き継いだばかりは何が何だかわからず苦労しましたが、最近はだんだんと慣れてきて、作るのが楽しくなってきたこともありました。

しかしながら、日本支部は2024年をもちましてクローズし、このニュースレターも本号をもって最後になります。

また、皆様にはすでに連絡が届いているかと思いますが、長年に渡り、年3回ニュージーランドから来日し、理事会や大会に参加して我々をご指導くださっていたピーター氏が、まるで日本支部のクローズを見たくないように、昨年12月に旅立たれました。

せっかくの新年のニュースレターで、

暗い話題ばかりで申し訳ございません。

もう飲み干してしまった方もいるかもしれませんが、宮崎からの焼酎を飲んで、気を取り直していただけると幸いです。

なお、IPPSを続けたい会員の方につきましては、ニュージーランド支部で受け入れていただけるとのことですし、世界各支部でも受け入れてくれると思われますので、そのような希望のある方がいましたら、ぜひ継続して加入いただけたら幸いです。

ちなみに私は、2025年度からニュージーランド支部に入会させていただこうかと考えています。

速水正弘



最後の総会、そして最後の木槌が
おろされました。

IPPS-J 第 29 回宮崎大会開催

南九州大学 環境園芸学部 環境園芸学科 前田隆昭



昨年 11 月 9 日（土）～10 日（日）にかけて宮崎県で IPPS-J 第 29 回宮崎大会が開催されました。IPPS-J は 2024 年末をもって閉会となるため、今回の宮崎大会が最後の大会となりました。最後の大会ということもあって、26 名もの多くの方々にご参加下さいました。1 日目は、南九州大学都城キャンパスにおいて、速水会長の挨拶に続き、基調講演として、『絶滅危機に陥った宮崎在来野菜を品種改良した次世代型新品種群の育成とその普及』という演題で、南九州大学 環境園芸学部 環境園芸学科 蔬菜園芸学研究室 陳 蘭庄教授によりご講演を頂きました。その後、6 課題の研究発表、総会が行われ、総会後は、都城グリーンホテルにて、懇親会を行いました。最後の懇親会ということもあり、IPPS-J の思い出を語り合いながら、皆様方、情報交換をされていました。2 日目は、九州沖縄農業研究センター 都城研究拠点を訪問し、主にカンショの育種についてお話を伺いました。その後、焼酎の里 霧島ファクトリーガーデンに移動して、焼酎工場の見学を行いました。焼酎工場は、皆様方、興味を持って見学され、試飲等で楽しまれていました。見学後は、霧島ファクトリーガーデン レストランにおいて、昼食をとり、IPPS-J 第 29 回宮崎大会を終了し、解散しました。解散後は自由参加で、宮崎大学農学部 鉄村教授の研究室を訪問させて頂きました。研究室訪問では、組織培養の様子を見学させて頂き、圃場も案内して頂きました。

第 29 回宮崎大会を開催するに当たり、実行委員として宮崎大学 鉄村教授、石村研究員、みやざき公園協会 日高さんには多大なるご協力を賜りました。さらに、会員の皆様方、大会参加の皆様方のご協力のおかげで 2 日間の大会を無事に終えることができましたことを、この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。



大会1日目終了時の集合写真



都城グリーンホテルでの懇親会の様子



九州沖縄農業研究センター
都城研究拠点での様子



焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン
焼酎工場見学の様子



焼酎の里 霧島ファクトリーガーデン
レストランでの昼食の様子



宮崎大学 鉄村教授の研究室の見学の様子

(写真提供：水谷朱美氏)

20年間楽しませていただきました。ありがとうございます。

速水正弘

IPPS-Jに参加し
楽しい時間を過ごさうと
でき、ありがとうございます。

感謝!!

藤森忠雄

28年間

ありがとう

ございました

ずと編集〜富田正徳

IPPSの第一回の千葉大会
より参加して、全国各地
での大会で競いながら
皆さんにお会いできた事が
よい思い出となっております。
大西 隆

出会いと別れ

いろいろ

ありがとうございました

鈴木

貴重な経験を

ありがとうございました

愛媛犬 犬橋広明

10年程度の加入期間でしたが、
他校会では会えないような様々な業種の
方々との交流や、見学の訪問ができて、
毎回楽しく参加できていたと思います。

藤倉正樹

多くの方々と

出会い、様々な

情報交換が

できました。

ありがとうございます。

また、前田隆昭

IPPS-Jへ。
たくさんの方に出会い
色々な所へ出張や、
とても良い経験に
なりました。

Thank You!!!

Akemi

30年間大変お世話に
なりました。思い出が
わくわくします。

雨木 義慶

才2回大会の宮崎大会が
盛況だったことがわかん
で。山本先生！青藤さん！

草野 修一

入社してすぐの滋賀大会
が分岐点だった。1941
と豊田、色崎、人、出雲
組、あつた
(柳)や(田)川に。

あのIPPSの
魁と見ると
一時的なリーダー
と思われます。

ニュージージーランドに
行かせてくれて
ありがとうございました！

日高 宏夫

ニュージージーランドへ換
留学では大変お世話に
なりました。日本支部が
開会するのはさびしい
かと思いますが、本会での
経験が今後いろいろな
場面で生かしたいと思います
石村

皆になんでも教えあって、
秘密のなかつた昔の園芸の
世界を懐しく思うと共に
時の流れを感じます。草野正子

ニュージージーランドからの
研修生ジョー君が、果
海にいる大団長の話を
してくれたこと、なつかしいです。
草野正子

IPPS-Jの1994年千葉設立大会に古在先生から誘われ参加したのがこの会との出会いでした。そしてここで、私の人生で大きな意味をもつ、個々のお名前は挙げませんが多くの方々に会うことになりました。IPPSの特長である「植物・増殖」のキーワードのみで、色々な垣根を越えたさまざまな分野の皆さんが集まり、とてもコアな情報交換する素敵な場でした。徐々に会員が減って最後は閉会ということにはなりましたが、30年間お付き合いいただいた会員の皆様には感謝しかありません。

1995年の第2回大会は宮崎市での開催で、故山本友英先生が会長として熱く語られる姿が今でも印象に残っています。山本先生の奥様とうちの奥さんのウマが合ったのか親しくしていただいて、その後の大会でもお会いできるのが楽しみでした。今回、会の閉会を宮崎の地で迎えたのも何かの縁と思いますし、困難の中を頑張って開催・運営して下さった前田先生には感謝、感謝、感謝です。有難うございました。

私は一匹狼タイプで、皆で群れて何かやるというのは苦手で、外部圧力がかからない限りは避けてきました。IPPS-Jの委員もなりたくてやった訳ではないので、ある出来事をきっかけに辞退させていただきましたが、会員だけは止めずにととうとう30年全うしたことになります。そんな私でも大会に参加すれば皆さん歓迎して下さい、皆さんの博識の会話から教えていただくことが何よりのお土産になる大会でした。

大学教員としてある程度まとまった卒業研究を発表する場として活用させていただいたこともお礼を申し上げなければなりません。学術的な学会とは一味違う、でも緊張の中での発表、その後の懇親会でいろいろなアドバイスをいただいた学生達にはとても大切な宝となったと思います。今回参加した卒業生も経験豊富な会員の皆様のお話を伺って貴重な経験になったと喜んでいました。

閉会は残念ですが、これまでの活動は無駄ではなく、気持ちよく“さようなら”したいと思います。

I P P S - J の歴史と私の関わり

速水正弘

国際植物増殖者協会日本支部は、今から約 30 年前の 1993 年 7 月に、ニュージーランド支部の E. ウェルシュ氏に支部設立準備委員会の発足の依頼を受け設立されました。その後、1994 年に支部設立会議が開催され、研究発表、現地視察、規約採択、役員選挙等が行われました。1995 年 1 月には国際委員会より暫定支部として正式に承認され、1997 年 1 月には国際委員会の承認を得て世界で 8 番目の支部となりました。この間、1995 年 11 月に宮崎県宮崎市で第 2 回大会を、1996 年 10 月に岐阜県大垣市で第 3 回大会を開催しました。

以降、第 4 回（1997 年 10 月）神奈川県、第 5 回（1998 年 10 月）愛知県豊橋市、第 6 回（1999 年 10 月）茨城県つくば市、第 7 回（2000 年 10 月）三重県鈴鹿市、第 8 回（2001 年 9 月）岡山県岡山市、第 9 回（2002 年 9 月）愛媛県松山市と、毎年研究発表会が開催されました。残念ながら私は参加していませんが、大学教授、生産者、企業関係者、行政関係者などが多く参加し、大変活気のある研究発表会だったと聞いています。

私が正式に入会したのは、2003 年 10 月に東京都立川市で開催された第 10 回研究発表会でした。私が関わることになったきっかけは、2004 年 9 月に静岡県浜松市で開催される第 11 回大会が、私が静岡県職員として関わっていた 2004 年浜松フロリアード（国際園芸博覧会）に合わせて国際会議として企画されたため、実行委員として参加しないかと誘われたことによります。私は挿し木や接ぎ木、組織培養などによる植物の増殖を専門としていたため、こうした大会で発表される内容に大変興味がありました。また、他の学会と違い生産者が多く参加し、自分の分野に直接応用できる発表が多いのも魅力でした。

第 11 回国際会議以降、第 12 回大会は 2005 年 6 月に三重県津市、第 13 回大会は 2006 年 7 月に和歌山県和歌山市、第 14 回大会は 2007 年 11 月に宮崎県宮崎市、第 15 回大会は 2008 年 10 月に茨城県つくば市、第 16 回大会は 2009 年 6 月に滋賀県大津市、第 17 回大会は 2010 年 10 月に愛知県東海市、第 18 回大会は 2011 年 10 月に愛媛県松山市で開催されました。これらの会議は、大学の先生が学生を連れてくるなど若い参加者も多く、活気にあふれていました。

私も花博後、以前教鞭をとっていた県立農林大学校で再び教鞭をとることになったため、第 16 回大会で愛媛大学の大橋先生が何人かの学生を連れてきていたことに倣って、第 18 回愛媛大会に、4 人の学生を参加させました。

しかし、この頃からバブル崩壊後の景気低迷の影響か、参加する生産者の数は

減少し始めました。

しかし、そんな中、2012 年 10 月に静岡県浜松市で第 19 回国際会議を再び開催しました。私は学生を数人動員し、国際委員会の視察先に本学も含めるなど、会議の盛り上げに協力しました。その結果、一時的に関心が高まり、2013 年 7 月には第 20 回岐阜会議のプレツアーとして、乗鞍岳の高山植物と岐阜県高山市を視察するツアーを企画しました。そして、同年 10 月に岐阜県大垣市で第 20 回岐阜大会が開催されました。

その後、第 21 回大会は 2014 年 10 月に神奈川県厚木市、第 22 回大会は 2015 年 9 月に群馬県前橋市、第 23 回大会は 2016 年 9 月に高知県高知市、第 24 回大会は 2017 年 11 月に沖縄県沖縄市、第 25 回大会は 2018 年 10 月に和歌山県田辺市、第 26 回大会は 2019 年 10 月に三重県津市で開催されました。しかし、この頃になると、学会設立に携わった著名な教授の退職が増え、会員の退会も相次ぎました。また、若い世代では、遠くまでお金をかけなくてもネットで情報が得られるので、学会に入会する必要はないと考える人も増え、生産者会員の減少に伴い、現場に密着するような発表数も減少し、学会の存続が危ぶまれていました。

さらに、学会を牽引していくと期待されていた会長や前会長が若くして逝去し、有望な後継者も残念ながら若くして逝去するなどの不幸も重なり、学会は衰退の一途をたどっていきました。

そのような中、残された役員らが回復の糸口を模索し、2020 年に第 27 回大会を宮崎県都城市で、さらに 2021 年には岐阜県岐阜市で第 28 回大会に併せ、国際会議が開催されることになり、これを機に学会を活性化させ、新たな方向へ向かうつもりでした。

しかしながら、そんな矢先、新型コロナウイルスの感染拡大が追い打ちをかけ、2020 年に宮崎県都城市で開催される予定でした第 27 回大会は、オリンピックですら延期になるほどで、同年大会は開催できず延期となり、2021 年には日本開催の岐阜県岐阜市の国際会議がなくなり、国内単独の大会開催になったことから、国内大会として第 27 回大会を 2022 年 10 月に岐阜県岐阜市で開催しました。

また、第 28 回大会を 2023 年 10 月に滋賀県近江八幡市で開催しましたが、大会の責任者だった方が急遽退会し、現地会員がいない中での開催となりました。

そして滋賀大会の総会では、会員数が減少し会運営の予算確保が困難になったこと、役員に立候補する者がいないことを会員に説明し、意見を集約した結果、役員に立候補する者がいないのであれば学会がまだ体力のあるうちに解散する必要があるとの結論に至りました。

そのため、2024 年 11 月に宮崎県都城市で開催予定の第 29 回大会を最後の大会とし、国際植物繁殖協会日本支部は 2024 年末をもって閉会することといたしました。

速水正弘



2004 年 9 月 花博を視察する国際理事会等のメンバーと国内の役員



懇親会後のカラオケで盛り上がる国際理事たち等



2011 年第 18 回愛媛大会に参加した
農林大学校の学生と鈴木理事（右端）
速水は左端



2011 年第 18 回愛媛大会に併せて、
ニュージーランドとの交換プログラム
により来日した若手メンバーが、
静岡県立農林大学校に来校し、花き
専攻の学生と交流

ピーター氏との思い出

水谷朱美

ピーター氏は、日本支部が立ち上がった頃(約 30 年前)からニュージーランド航空ビジネスクラスに搭乗し、理事会参加含め年 3 回 IPPS-」のために来日していました。ちょうどコロナは始まった頃から体調を崩し、再来日を楽しみにしていました。

彼の食事は偏っていて、ほぼ肉とつけあわせの野菜しか食べない人で、自分で釣った鰯はグリルして食べるそうですが魚、白米、麺類、豆腐、味噌汁、漬物を食べませんでした。ビールとサントリーウイスキーの「山崎」、カプチーノ(砂糖 3 つ入れる)も大好きでした。来豊の際は、ほぼ毎回名古屋発祥のしゃぶしゃぶ「木曽路」に行きました。女の子が最初のお肉をサーブしてくれることと、お店の女の子がピーターのことを覚えていたことも理由だったようです(すぐに女の子は居なくなりましたが)。

その他のルーティンは、ひたすらホームセンター巡りですね。木工細工が趣味でしたが、趣味というにはあまりに本格的な丸太から材木を切り出す大きな電動のこぎりに始まり、材木をだんだん小さく加工していくための道具も沢山ある大きな工房を自宅に持っていて、端材や糸鋸の刃や細工のための道具やネジとかも購入していました。宮崎大会にも出ていましたが、木製看板と決議をした際に叩く槌と受け板、それらを入れるための手作り箱を寄贈してくれたり、沖縄大会ではオークションの品として手作りボードを持ってきてくれたりしました。

あとは車好き。大きくて黒い 2 ドアスポーツカータイプのレクサスに乗っていて、3,000 キロくらい走るとすぐにセールスマンが下取りして新しい車を持ってくると言っていました。先日訪問時は、黒のワゴンタイプレクサスに替わっていました。以前どこで知ったのかレクサスの工場見学に行ってみたいと言われ、ホンダ車に乗っている私ではどうにも出来ず、レクサスに乗っている知り合いに頼んだら、愛知県田原市にも工場があるのに北九州の宮田工場まで行かなければ見学が出来ないということで、わざわざ九州まで行ってレンタカーで行きましたよ。ここでも嬉しそうで、満足気でした。

大会の研究発表時は居たり居なかったりな感じでしたが、懇親会のオークションでは大活躍でしたね。普段ほとんど話をしないのに、めっちゃめっちゃ早口なアゲアゲ口調で値段を捌いていく姿はとってもイキイキして楽しそうで別人でしたね。

昨年 11 月に誕生日をめぐって 2 泊 4 日で日程を組み、ハミルトンの自宅まで会いに行ってきました。1 日目は、朦朧としてあまり話をする感じではありませんでしたが、2 日目は、ピーターから会いに来いと電話が入り、1 日目よりは復活して冗談も言える感じでした。ただ帰り際は、ピーターも私も「バイバイ」が言えず、手を振り合うだけでお別れしてきました。その一ヵ月後の 12 月 19 日満 83 歳で亡くなりました。

長い間日本支部を見守ってくれてありがとうございました。ご冥福を祈ります。



2017.1.10 木曽路にて



2017.11.18 第24回沖縄大会



2018.6.18 レクサス トヨタ九州 宮田工場にて



2024.11.19 ピーター氏自宅



ピーター氏作品

IPPS-J 第十四期理事・監事・役員・理事代理（2024.1.1～2025.12.31）.

	役 職	氏 名	担 当	会 社 ・ 所 属
1	会長	速水 正弘	ニュースレター	
2	副会長	前田 隆昭	宮崎大会	南九州大学
3	編集理事	富田 正徳	ホームページ	バイエルクロップサイエンス(株)
4	事務・会計理事	水谷 朱美		(株)ベルディ
5	理事	藤森 忠雄		フジモリ農園
6	理事	落合 正樹		岐阜大学
7	理事	鈴木 智子		静岡県経済産業部農業局
8	監事・国際理事	大橋 広明		愛媛大学
9	年史編集委員	鉄村 琢哉	宮崎大会	宮崎大学
10	理事代理	大西 隆		(有)セントラルローズ
11	理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト
12	理事代理	石村 修司	宮崎大会	宮崎大学

編集後記

ここ数年、毎年暮れ、正月の忙しい時期に編集作業に追われていた、ニュースレターも、これが最後のニュースレターと考えると、なんだかホッとするような寂しいような気がします。

今回のニュースレターは、編集する内容により、最初とこの最後のページのみいつものスタイルとさせていただき、その他はお送りいただいた原稿にページを加える程度の修正のみさせていただきました。（ページの無いものもあります。）

前号、そして宮崎大会でも、皆様の IPPS に関する思い出や、ここだけの秘話、簡単な解説付きのメモリアル写真等、掲載しようと投稿を皆さんにお願いしましたが、残念なことにあまり集まりませんでした。それでも何とか増量を図り、いつも程度のボリュームで発行にこぎつけました。

なお、私が担当したニュースレター（61号から74号）については、すべてをPDFで保存してありますので、必要な方についてはデータの提供は可能です。ただし、2024年末まで会員だった人に限ります。

さて、ご案内ですが、このままでは何か寂しいという方のために、5月31日に名古屋で**思い出を語る会**が計画されています。別にご案内が届くと思いますので、ぜひご出席をお願いします。

ニュースレター担当：速水正弘